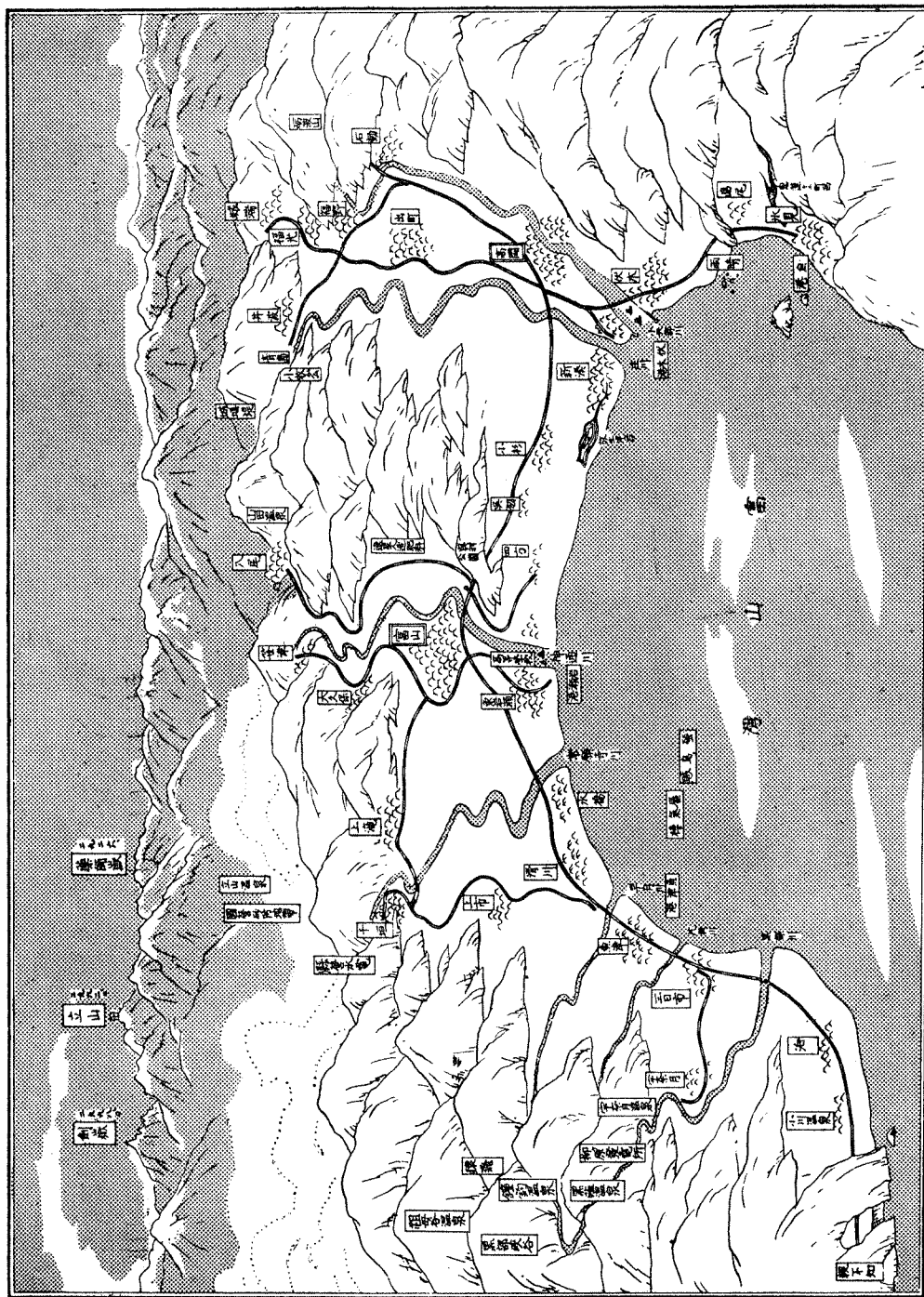


(1) A map of Toyama Prefecture.

(1) 富山縣鳥瞰圖



## 土木第一の富山縣を見て

### 水力王國として全國第二位

田畑は一年一作、水害は多い、天産物は少い、此の状態の富山縣は唯水力電氣の開発で救はれるより外はあるまい。

富山縣には縣營の外に大小幾多の水力電氣事業が起されてをる。各社の利害關係も複雑な事であるが、總ては合理的な發達の下に此地に天恵あらしめたい。

○

富山縣の地勢は見取圖に現はれたる如く、南は一萬尺に近い峻峰で屏風の如く圍まれ、北に向つて急峻な勾配をなして日本海に流れ込む、河川の急峻な勾配と水量の豊富なるは、水力發電地點として全國第一を誇る長野縣に次ぐものである。

水力電氣利用の諸工業の發展に對して海運の便なる丈け富山縣は將來に於て長野縣よりも産業立國の點から最も有望である。

○

四月三十日現在にして發表の統計表を見るに縣下の利用さるべき河川は 19 河川にして其の中にて水力使用の

許可地點 64 此の馬力 1,081,118

未處分地點 147 此の馬力 1,154,294

に及ぶを見ても如何に豊富なるかを知る事が出来る。以上の内既に發電を開始せるもの41地點、318,261 馬力、而して工事中のもの5地點、243,866 馬力に及ぶ。

#### 盛なる富山縣營水力電氣事業

山が高い、海が近い、河川が多い、従つて水害の大なる事も當然である。

富山縣の最近十三年間に於ける災害復舊土木工費は總計 1 千餘萬圓に達してをる。

災害は即ち人畜家屋の被害も大なるものがある、此の洪水の被害を根本的に除却するには五千萬圓以上を投じて河川の改修工事を行

はねばならぬ、然し當縣は財政窮乏の方であるからそれは容易な事でない、國としては今や神通川其他の改修工事を着々やつてをるが縣として尚ほ長い工事を續けねばならぬ。此等の財源として且つは治水の目的にも沿ふべく、水力電氣事業を經營する事に縣當局が着目したのであつた。

大正九年臨時縣會を開き縣營水力電氣事業費を可決し、同時に水利使用の許可を得、十二年六月電氣事業經營の認可を得た。

○

第一期事業として富山、千頃間に鐵道12哩を敷設し、常願寺川水系にて上瀧、松ノ木、中地山の三發電所を建設し出力 14,300 キロワットを得、大正十三年四月から發電を開始した、以上の總事業費は縣債 865 萬圓に依るに云ふから一キロ當り 6 百圓餘である。

第二期、第三期の發電事業費はもつこ安く出来るから割合に有利なる事業である。

目下は第二期の眞川發電所 17,500 キロの工事中であるが、第二期と第三期とが竣工すれば總出力84,300 キロとなるが、尙此の外に常願寺川水系から三ヶ所最大 3 萬キロを得る豫定計畫も立つてをる。

最後に縣營電氣は其の營業成績が良く、益金も漸次増加しつつあるから、將來縣の財源としては偉大なるものとなるであらう。

#### 土木必然の關係

水力を開發するに同時に之を最も有利に使用する爲めには縣内にも諸種の工業が興されねばならぬ。之が第一歩として各方面の基本的な土木事業が進められる

#### 神通川改修工事

内務省では神通川の改修工事に着手してをる、之は大正七年より昭和九年度迄に九百餘



(2) Tateyama Mountain in Toyama and a line of Japanese Alps.

(2) 富山縣の立山頂上及  
日本アルプス連峯

(3) 富山縣立山の稱名瀧  
(落下 1350 尺)

萬圓の工費を以て大工事を進めてをる。

### 東岩瀨港

東岩瀨港は富山市の海門たるもので神通川口にあり、工費 50 餘萬圓を以て改修工事に着手し既に 1 千噸級汽船の繫船をなしつつある。第二期工事として 3 千噸級の船舶を入るゝ迄に浚渫するこの事である。

### 富岩鐵道

は富山市と東岩瀨港とを連絡する唯一の陸上連絡線である。

### 富山都市計畫事業

は第一に神通川の廢川土地を埋立て區劃整理をなして商工業地を構成せんとするもの、此の面積 185,000 坪其他に船溜、鐵道、道路水路、公園等を設くるもの。

第二は運河新設事業にして東岩瀨港より富山市に至る延長 2,500 間の地に閘門式運河を開鑿するもの。

第三は街路新設事業にして、12間道路 490 間、10間半道路 1,460 間を新設するもの。

以上の事業費總額 380 萬圓は昨年末縣會を通過したから愈工事に着手するものも近い内で斯くて富山市の面目も一新するに至らう。

### 新出の昭和電力會社の計畫

は庄川及び九頭龍の二大水系から水力發電地點十二ヶ所を得て總出力 165,000 キロワットを開發し、大阪及び名古屋方面の大同電力

會社に全電力を供給するものである。

資本金は 4 千萬圓(拂込不明)、昭和元年十二月の創立にして、本社は東京市麴町區永樂町に在る。

第一期事業として庄川第二發電所は昨年四月起工以來目下豫定の進捗をしてをるこの事

(3) The Sho-Myo Water-Fall in Toyama.  
Its height of drop is 1350 Shuku.



である。此の設計大要は  
 使用水量 2,970 個  
 有効落差 220 尺  
 理論馬力 73,538 馬力  
 有効貯水量 3 億個  
 之が爲めには庄川水力會社の小牧堰堤に次ぐべき大堰堤がある。それは  
 型式 直線重力式  
 堤高 242 尺  
 堤長 422 尺  
 堤體(混凝土)  
 23,916 立坪  
 其他丸形内徑19尺、長さ270 間の道水路があり、内143 間は耐壓隧道である。其他の施設及び工事狀況は他日紹介の期を得る事とする。

堰堤餘談

一體にアメリカは技術者を信用しすぎる國であるから、セント、フランス、ダムの設計もロスアンゼルス市の給水局が單獨にやつたもので、日本に於けるが如く方々の關係官廳に意見を述べると云ふ様な事をしない。従つて影響するところも工事其物丈けに就ての考で仕事を進めてをる様である。

(4) City plan of Toyama City.

(4) 富山縣の都市計畫圖  
 富山縣市第十區  
 第一期專賣水電計畫圖

